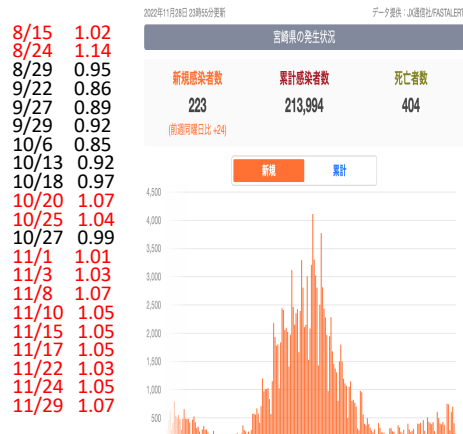


## 実効再生産数 全国



## 実効再生産数 宮崎



## 実効再生産数 福岡



## 大分



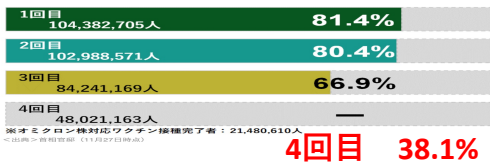
### 実効再生産数

11/1	1.01
11/3	1.04
11/8	1.07
11/10	1.06
11/15	1.08
11/17	1.09
11/22	1.07
11/24	1.06
11/29	1.06

**宮崎県DATA (11/29)**  
 医療機関入院中**56名(延17)**  
 宿泊療養施設入所中**47名(延10)**  
 入院ベット専有率(宮崎県**15.1%**)  
 (延26.6% (実働56.6%))

### 宮崎・児湯地域で増加傾向

県延 6/13, 医師会 5/13, 共立 0/0, 平田東6/2, 吉田0/2



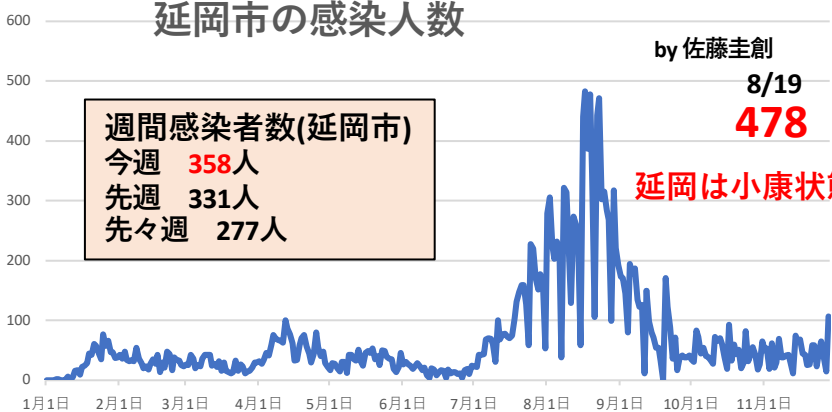
北海道・東北で感染者数が急増しており、これから九州も寒くなるとともに感染者が急増すると考えられる。また、インバウンドにより、オミクロンの亜種 (XBB, BQ.1, BQ.1.1, BF.1.) の感染者が国内で散見されるようになり、これが、第8波の原因になる可能性高い。

### 直近1週間の人口10万人あたりの感染者数



東高西低

### 延岡市の感染人数



最大数 デルタ27人、BA.1: 70人、BA.2: 99人、**BA.5: 478人**

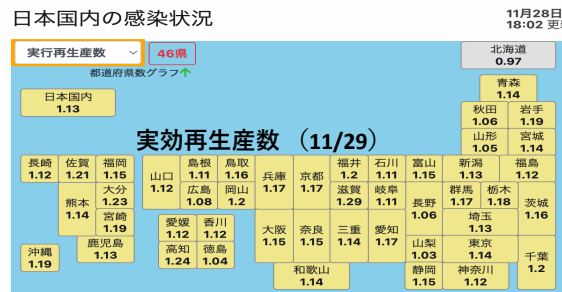
宮崎県：第1～5波感染者6142人、第6～7波感染者199412人

### 延岡市の実効再生産数

8/29	0.96
9/6	0.73
9/15	0.82
9/20	0.65
9/26	1.09
10/3	0.93
10/10	0.90
10/17	1.25
10/24	0.86
10/31	0.93
11/7	0.98
11/8	0.98
11/15	1.00
11/22	1.00
11/29	1.28

連休効果

### 日本経済新聞 チャートで見る日本の感染状況 新型コロナウイルス



# 感染症は割合（％）ではなく、総数が問題

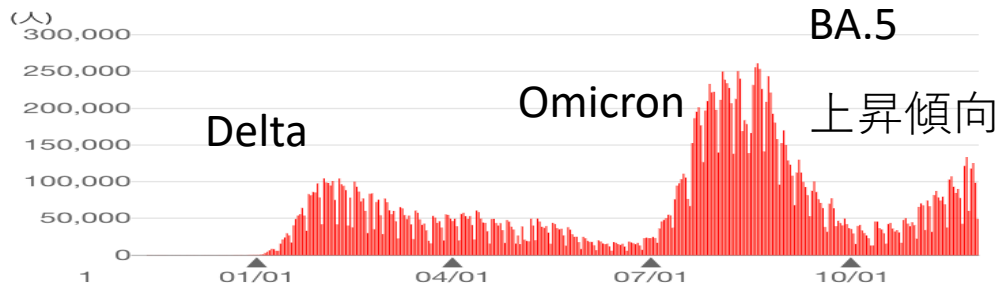
## 新規陽性者数の推移（日別）

情報更新日：2022年11月28日

新規陽性者数 **49,117** 人  
 前日比 **↓ 49,359** 人

1週間平均 **100,813** 人  
 前週平均 **85,418** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 **1年**



## 入院治療等を要する者等推移

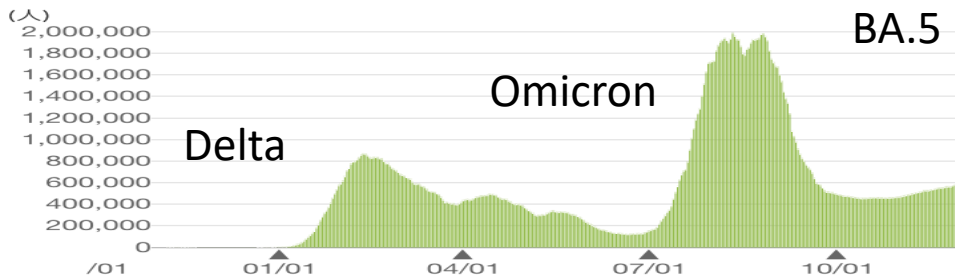
情報更新日：2022年11月28日

入院治療等を要する者 **582,537** 人 **↑ 6,354** 人

退院又は療養解除者数 **20,688,258** 人 **↑ 9,024** 人

確認中 **3,199,598** 人 **↑ 33,636** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 **1年**



上昇傾向

オミクロン株、特にBA.5の方が死亡者数多い

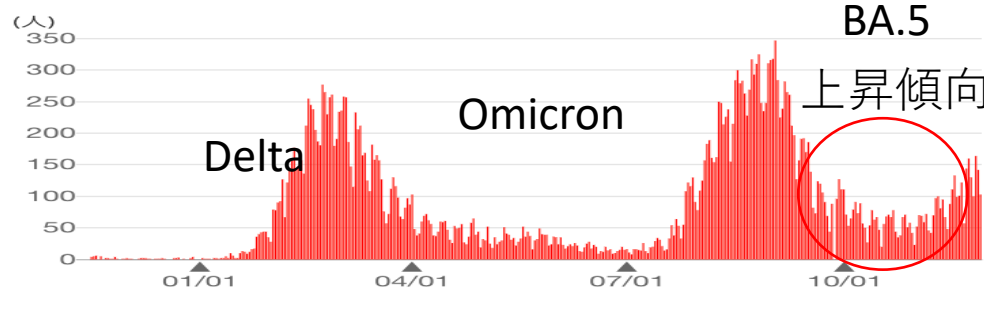
過去最高 9/2：347人

## 死亡者数の推移

情報更新日：2022年11月28日

死亡者数 **103** 人  
 前日比 **↓ 39** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 **1年**

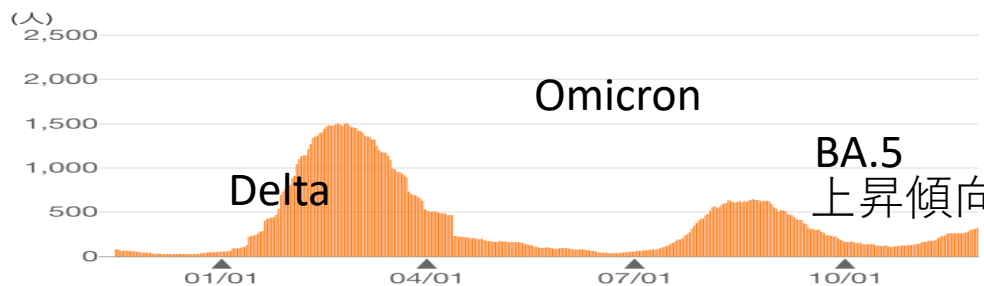


## 重症者数の推移

情報更新日：2022年11月28日

重症者数 **322** 人  
 前日比 **↑ 14** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 **1年**



上昇傾向

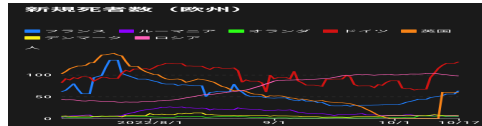
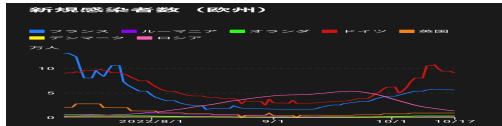


データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—

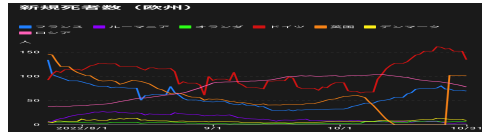
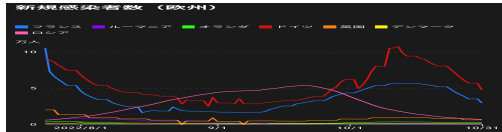
# 世界の流れ

— 欧州で感染者数・死者数増加傾向 —

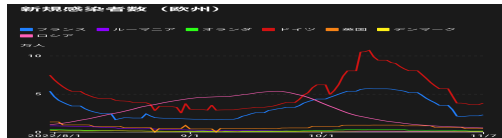
10/25



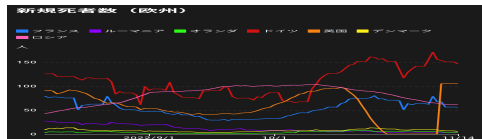
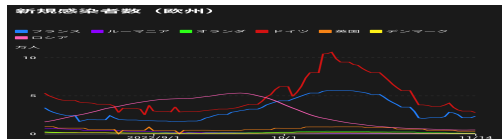
11/1



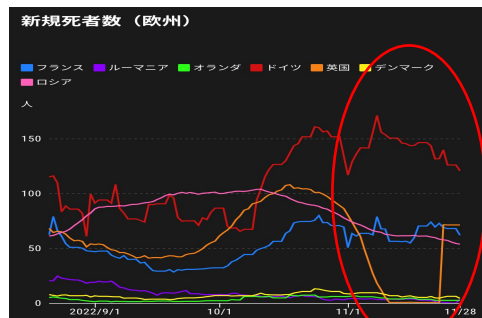
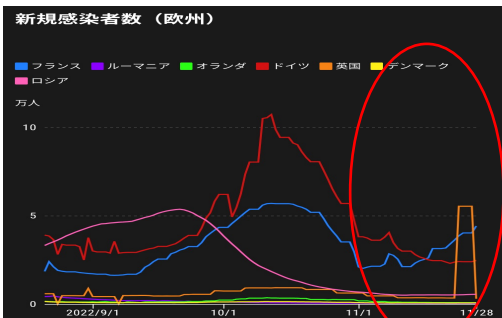
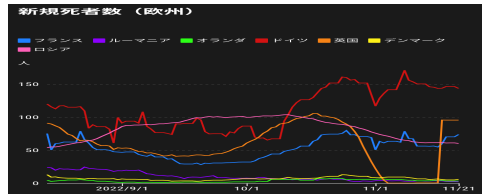
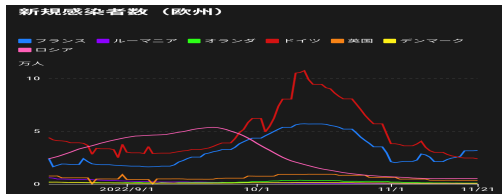
11/8



11/15



11/22



BQ.1&BF.7

増加率 1.29倍 & 1.18倍  
(BA.5との比較)

新たなオミクロン株の亜型

系統	名称	特徴	都内の確認数	主な世界の検出状況
BA.5	BF.7	英国でBA.5より増加率が1.18倍	131件	デンマーク、ベルギー、米国
	BQ.1	英国でBA.5より増加率が1.29倍	46件	米国、英国、フランス
	BQ.1.1含む	免疫を回避する可能性		
BA.2	XBB	BA.5より感染力が高い 免疫を回避する可能性	6件	シンガポール、インド

※東京都の資料を基に作成

東京新聞 TOKYO Web

2022年10月27日 21時30分

東京都内で亜種の感染者数増加

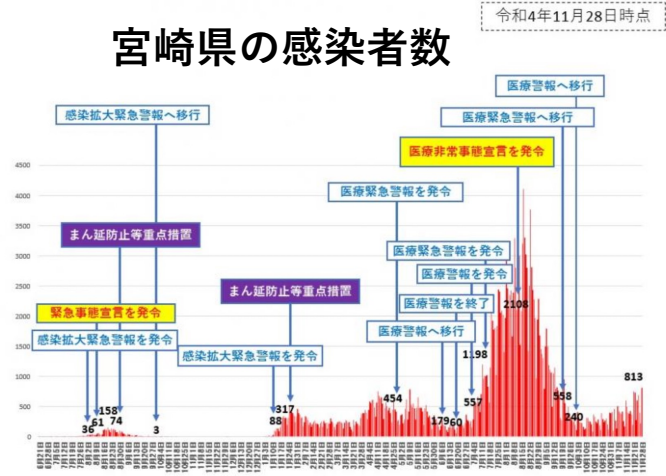
欧州の感染者が低下傾向にあったが再上昇し始めた

- 全国的に感染者数が増加傾向継続している。
- 実効再生産数は、1ヶ月以上継続的に1以上でまだまだ減る傾向にない状態で、今後も間違いなく増加傾向は継続する。
- 感染の実態は、東高西低で、気温が低下し冬が到来した北海道・東北を中心に感染拡大が顕著である。
- 延岡市の実効再生産数は、2週継続で1.00、小康状態が続いている、1週間あたりの感染者は少し増加しており、今週は11/23に休日があることから、それ以降少し増加傾向ななりやすい。
- 県内では、宮崎市内・都城市の感染者の増加が顕著で、県内は南高北低の状態、観光客の人流に伴う影響が出始めている。
- 感染のピークは、東日本は12月中旬から年末、西日本は12月中旬～年始、その中で九州は、成人の日の数日後がピークとなる可能性高い。
- 県北の病床については、日之影町立病院が新しく2床申請、平田東病院が増床申請中。
- 宮崎県の感染は、現時点で感染増加期にあり、主体は小中学高校生～大学生の若年世代が中心で、入院必要者・重症者は上昇していない。
- 延岡市内の入院患者もこの1週間5～10人を推移しており、増加傾向なく安定している。
- 以上より、全国的には感染者増加傾向にあるが、延岡市内に関しては小康状態が継続している。
- 国内では、BA.5が感染の95%以上を占める状態が継続しており、ワクチン未接種者の感染が増えている。今後、BQ.1, BQ.1.1, BF.7などのBA.5の亜種やXBBなどのBA.2の亜種に、徐々に置き換わっていくと考えられる。
- ワクチン接種者は、4回目・5回目の接種者は徐々に増加しているが、ワクチンを一度も打っていない人～2回まで接種をやめている人の接種率は上がらない、特に若者の接種率が上昇しないのが、今後の感染拡大と後遺症患者の増加を考えると心配である。
- 今週の最大のニュースは、**ゾコーバ（エンシトレルビル、塩野義）**の国内承認が決定されたことであり、これにより第8波の感染者・重症者の抑制効果がある程度望まれる。
- 加えて、9月にはラゲブリオの一般販売も認可されているため、新型コロナの経口薬の治療戦略が整ってきた。

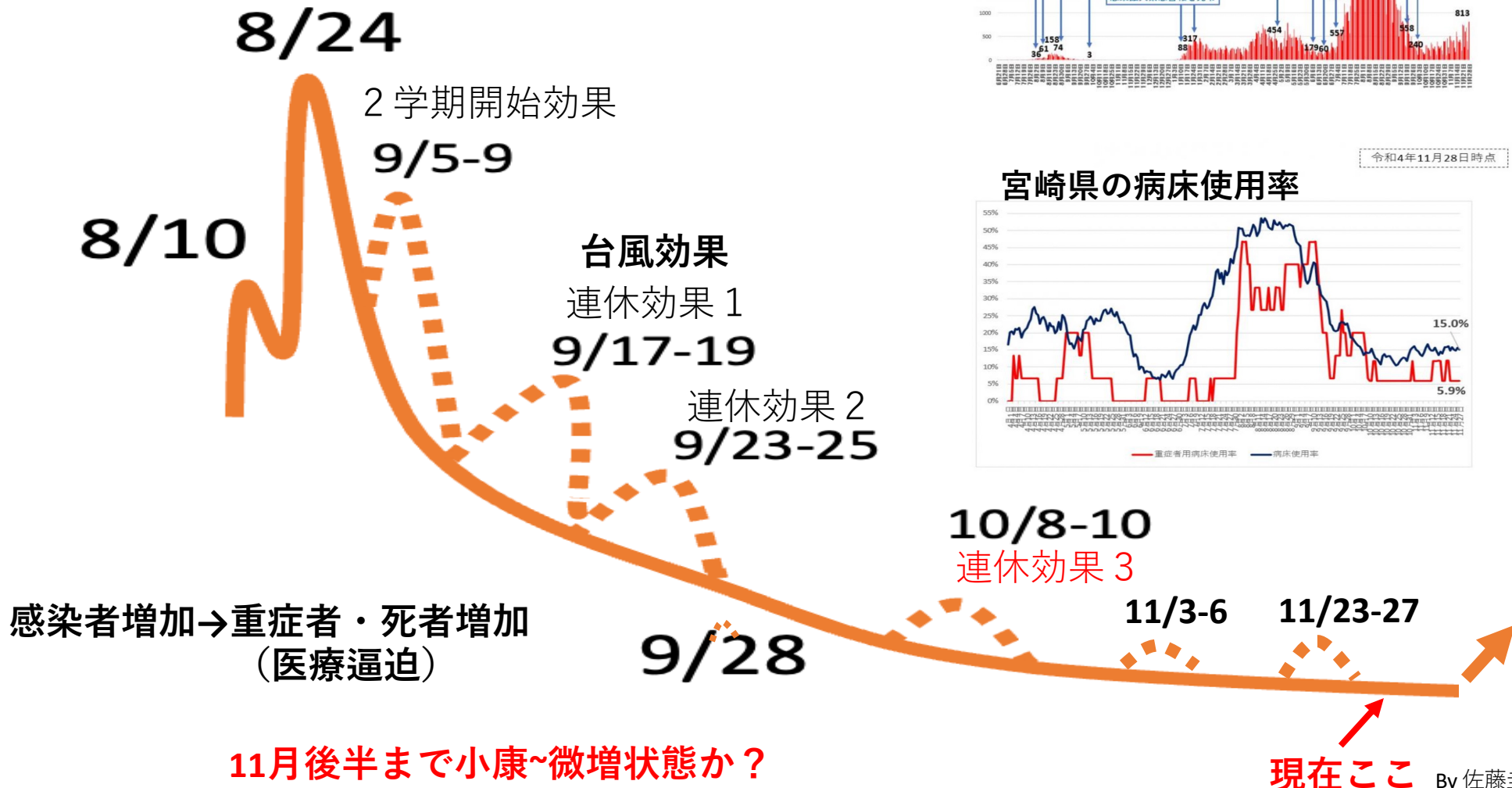
11月初めまで小康状態で下げ止まりであったが、人流の増加と寒気と共に徐々に感染者数が増加傾向に転じつつある。  
 国内では、北海道・東北で感染者数が急増しており、これから九州も寒くなるとともに感染者が急造すると思われる。  
 また、インバウンドにより、オミクロンの亜種（XBB, BQ.1, BQ.1.1, BF.1,）の感染者が国内で散見されるようになり、これが、第8波の原因になる可能性高い。  
 延岡市は、政府の補助金の終了で、共立病院のコロナ病棟がなくなり、入院病床の確保が急務である。

**英国、ドイツ、フランス、英国で感染者・死亡者が増加傾向**  
**オミクロン亜系統（XBB, BQ.1, BQ.1.1, BF.1など）の増加が懸念される**

### 宮崎県の感染者数



### 宮崎県の病床使用率



# これからの流行予測

インフルエンザが12月に流行  
それにかぶさる形で新型コロナ流行

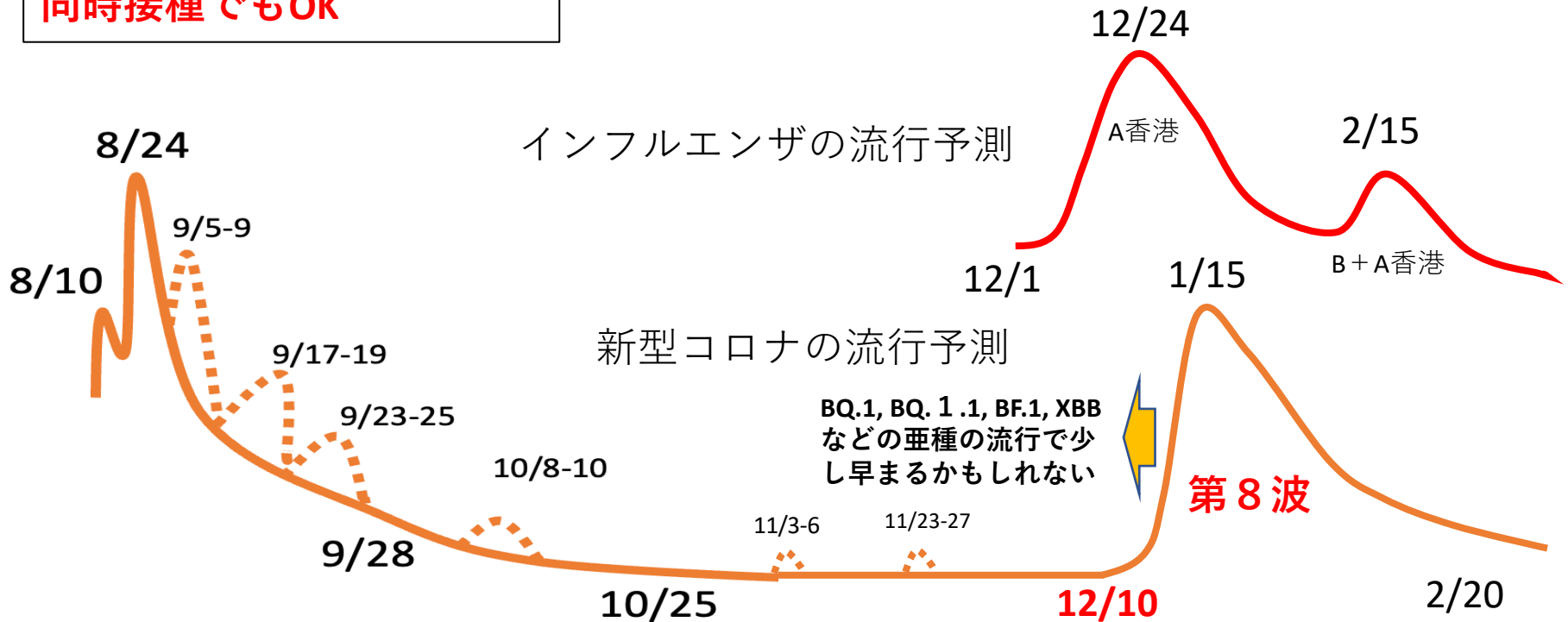
12～1月はツインでパンデミックの可能性（医療崩壊危機）

インフルワクチン効果、2W効果発現開始、1Mでピーク、3～5ヶ月で抗体減少

新型コロナワクチン効果、1W効果発現開始、1Mでピーク、3～4ヶ月で抗体減少

**ワクチン接種の目安**  
インフルワクチン11月中旬  
新型コロナ11月中～下旬  
同時接種でもOK

寒冷、乾燥、寒気低下、  
人流、マスク外し、インバウンド  
オミクロン亜種の広がり



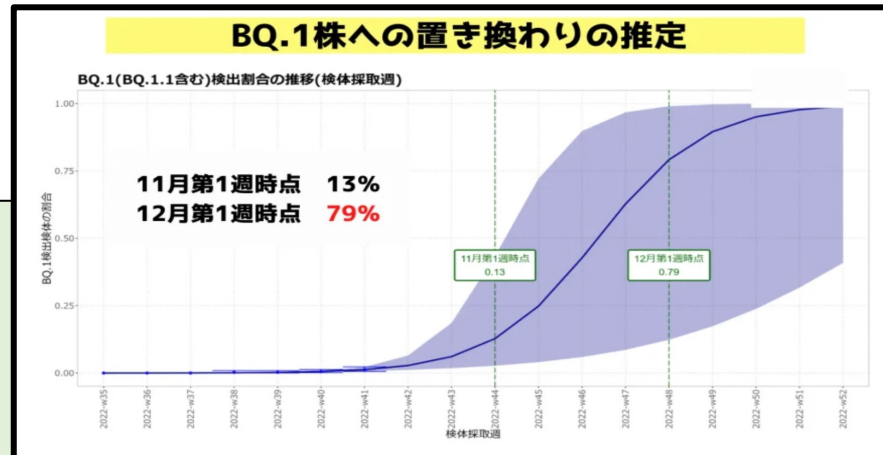
# BQ.1系統とXBB系統

## BQ.1系統について（ケルベロス株）

- BQ.1は、BA.5.3系統の亜系統(R4年9月ナイジェリアから報告)
- BQ.1系統にR346T変異が追加されたBQ.1.1系統
- 懸念される亜種（VOC）に認定
- 英国、フランス、デンマークなどの欧州および米国から多く登録
- 2022年第42週時点で、BQ.1系統は全世界で検出された株の13.4%を占め
- 米国では8月以降BQ.1系統が上昇
- 欧州では英国、フランス、デンマーク、スペイン、イタリア、ベルギーなどで9月末頃からBQ.1系統の占める割合が上昇
- オミクロンBQ.1系統（BQ.1.1を含む）の感染力は、従来の変異株（BA.5株）に比べて1.2倍
- BQ.1株についても潜伏期間は2～3日程度
- BQ.1系統はBA.5系統から、スパイクタンパク質にK444T、N460K変異を獲得。その結果、中和抗体からの逃避能が上昇する。
- BA.5株よりもワクチン接種や過去の感染による免疫から感染する免疫逃避能が高いため、BA.5株よりもワクチン接種や過去の感染による免疫から感染する免疫逃避能が高くなっている
- BQ.1株のみに特化した症状はなく、BA.5と同じ症状。
- 症状と重症度はワクチンの接種状況についても異なり、ワクチン接種をしているとくしゃみや鼻水を主体にしやすい。
- BQ.1株がBA.4/BA.5株よりも大きな重症度と関連しているという証拠はない、重症化率・死亡率は、BA.5と同等
- 日本国内では、オミクロンBQ.1（BQ.1.1株）の置き換わりの推定は11月1日現在で13%ですが、12月第1週には79%に達すると見込まれる。**

## XBB系統について（グリフォン株）

- BJ.1系統(BA.2.10系統の亜系統)とBM.1.1.1系統(BA.2.75.3系統の亜系統)の組換え体であるXBB系統が報告（シンガポールや米国）
- インド、バングラデシュ、シンガポールで検出数の増加
- BA.2.75（ケンタウロス）よりも広がる勢いが早い
- XBBの感染力は、従来の変異株（BA.5株）に比べて1.2倍
- BA.2株に似た性質を持つ
- シンガポールにおいては、9月末からXBB系統の占める割合が上昇
- XBB系統はスパイクタンパク質の受容体結合部位中のR346T、N460K、F486Sなどのアミノ酸変異を有し、中和抗体からの逃避能が上昇する
- 従来型、オミクロン対応2価の両ワクチンの感染予防効果が低下する可能性が示唆されている



## XBB系統

BA.2系統の変異株

シンガポールやインドで  
増加

BA.2類似の症状

感染力は、BA.5の1.2倍

免疫回避能高い

重症化リスクは、  
BA.5と同等

ワクチン：効果まだ不明

現在30%

## BQ.1系統

BA.2系統の変異株

欧米で増加

BA.5類似の症状

感染力は、BA.5の1.2倍

免疫回避能高い

重症化リスクは、  
BA.5と同等

ワクチン：感染予防効果低下、  
重症化予防効果変化なし

現在16%



# ゾコーバ承認

## 塩野義のコロナ飲み薬を緊急承認 「ゾコーバ」 国産初

### 日本経済新聞

2022年11月22日 19:01 (2022年11月22日 19:33更新)

厚生労働省は22日、[塩野義製薬](#)が開発した新型コロナウイルス治療薬「ゾコーバ」を緊急承認した。専門家分科会が症状改善を早める有効性を推定できると判断した。緊急承認制度の適用第1号で、軽症者に使える初の国産飲み薬となる。12月初めにも医療現場で使えるように供給を始める。

厚労省は100万人分の供給契約を結んでいる。輸入薬と異なり、国内生産で安定調達が見込める。12歳未満の小児、妊婦や妊娠の可能性のある女性は使えない。

塩野義は9月、最終段階の臨床試験（治験）のデータを公表した。軽症・中等症の患者が1日1回、5日間服用し、鼻水や発熱、せきなど5症状が消えるまでの時間が約8日から約7日に短縮することを示した。ウイルス量減少も報告した。

軽症・中等症向けの飲み薬はほかに米メルク製や米ファイザー製が実用化されている。いずれも投与対象は重症化リスクのある人に限られる。

薬事・食品衛生審議会（厚労相の諮問機関）の分科会と部会の合同で審議した。治験途中の中間解析に基づく7月の審議では「有効性を示すデータが十分でない」として継続審議としていた。

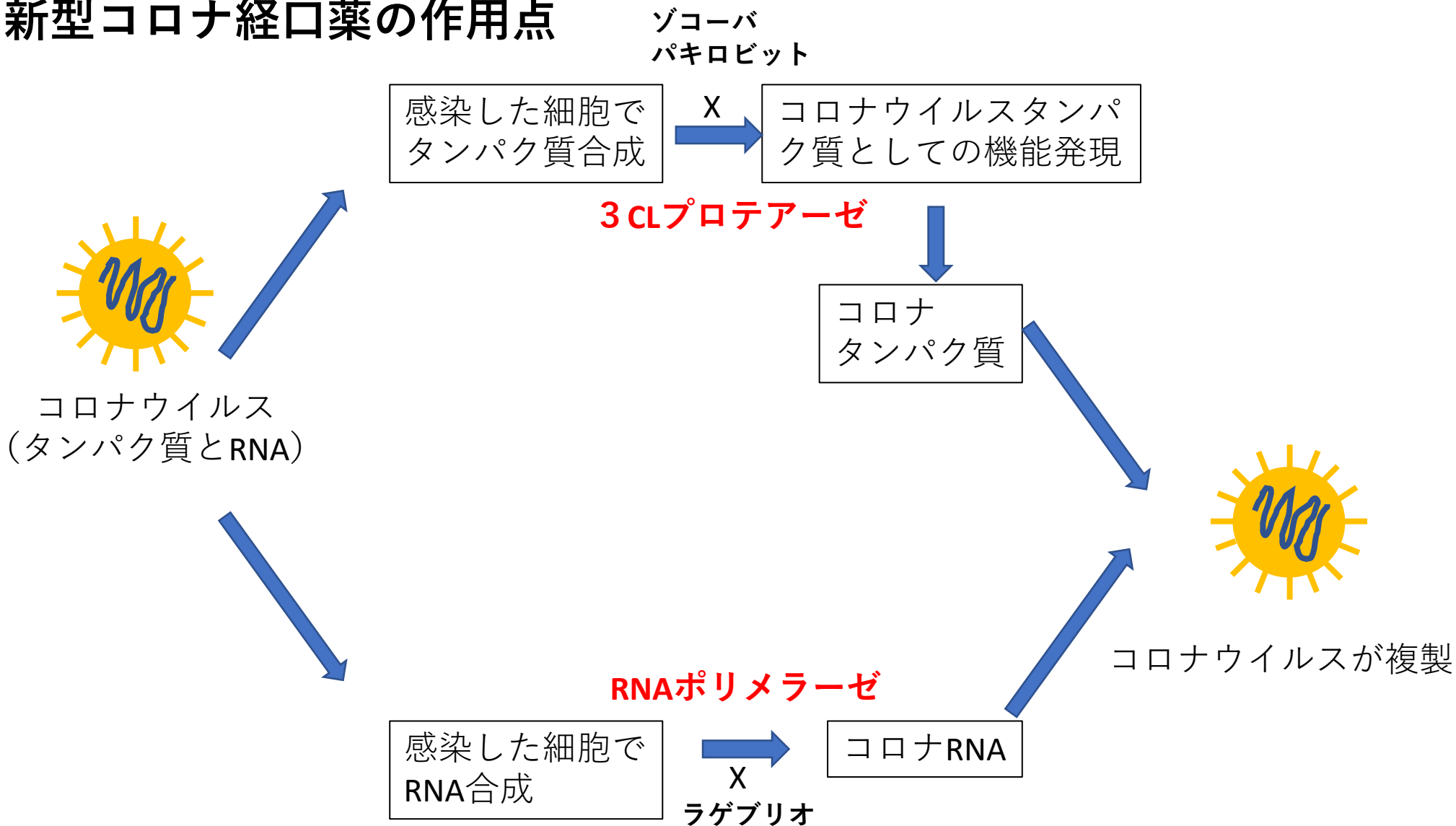
# 新型コロナウイルス経口治療薬『ゾコーバ』について

11 / 22  
承認された

- ズコーバ（エンシトレルビル、塩野義）
- 現在までの経口薬で、軽症から中等症向けの薬なし。
- ラゲブリオやパキロビットは、重症化リスクのある人が対象。
- インフルエンザにおけるタミフル（オセルタミビル）の様な存在
- 12歳以上で使用可能
- ズコーバ(150mg) 1日1回1錠を3日間服薬
- 承認されれば、100万人分国内供与。1000万人分の製造可能。
- 作用機序： 3CLプロテアーゼ阻害作用によりウイルスの増殖を抑制する
- 強力なウイルス増殖抑制効果：細胞、動物、ヒトの臨床試験でも証明された（3回投与で著明なウイルス量減少効果）。
- 7月緊急承認見送り：一般的なコロナ特有の12の症状（オミクロン以外のコロナに多い症状も含む）では有効性の確認できなかったため
- 9月末、オミクロン株に特有な5つの症状（咳、発熱など）に絞って再検討した結果、症状の期間が24時間短縮されることが確認→有効性の証明ができた→再検討
- 感染症学会、化学療法学会：7月の承認見送りは誤り、承認されていれば第7波の医療崩壊は防げた→厚労省に提言
- 海外戦略： 中国、韓国で申請（日本より先に承認されるかも）、米国、英国、欧州（EU）でも申請準備
- ズコーバを低中所得国に広く提供するライセンス契約取得した
- 問題点：CYP 3Aの阻害作用あり、相互作用に注意必要。催奇形性あり妊婦に使用禁忌

ズコーバが承認使用されれば、コロナの治療が根幹から変わる→  
重症化抑制の治療から、**全コロナ患者対象とした治療へ**

# 新型コロナウイルス経口薬の作用点



By 佐藤圭創

# 経口新型コロナウイルス治療薬の比較

	塩野義社 ゾコーバ (エンシトレルビル)	メルク社 ラゲブリオ (モルヌピラビル)	ファイザー社 パキロビットパック (パキロビット)
薬剤			
有効性	臨床症状改善 体内ウイルス量減少	入院・死亡者 3 割減* 体内ウイルス量減少	入院・死亡者 9 割減* 体内ウイルス量減少
作用	3 CLプロテアーゼ阻害 (ウイルス蛋白の活性化抑制)	RNAポリメラーゼ阻害 (ウイルスRNAの合成抑制)	3 CLプロテアーゼ阻害 (ウイルス蛋白の活性化抑制)
使用法	ゾコーバ錠を 1 回1錠、1 日 1回、 5 日間経口投与	ラゲブリオカプセルを 1 回 4 カプ セル、1 日 2 回、5 日間経口投与	ニルマトレルビル 1 回 2 錠、リトナビル 1 回 1 錠を同時 に 1 日 2 回、5 日間経口投与
注意点	CYP3Aの阻害作用あり、相互作用に注意 必要。妊婦に使用禁忌	妊婦に使用禁忌	併用禁忌・併用注意薬多数あり
対象	軽症～中等症、12 歳以上	重症化リスクある人、18 歳以上	重症化リスクある人、12 歳以上
承認	承認済 (11/22)	承認済	承認済

\* 流行株が異なる時期での臨床試験での結果のため、実際は有効性に差はないと考えられる

# 新型コロナ インフルと同じ「5類」に見直し…専門家と議論し検討へ 加藤厚労相が表明

11/29(火) 12:35 配信  693      

0TELNEWS

新型コロナウイルス感染症の位置づけを5類へ見直すことについて、加藤厚生労働相は「最新のエビデンスに基づき、早期に議論を進めていきたい」として、近く検討に向けて専門家と議論を始める考えを明らかにしました。

【図解】新型コロナ「5類相当に」見直しは？ 入院勧告ナシで医療現場“負担軽減”もデメリットは“受診控え”と感染拡大

加藤厚労相「専門家の意見も聞きながら、最新のエビデンスに基づき、総合的に早期に議論を進めていきたい」

加藤厚労相は、新型コロナ感染症の位置づけを、現在の「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に見直すことについて、まずは新型コロナの病原性や重篤性、感染力などを専門家に評価してもらい、議論を進めると述べました。

現在、国会で審議中の感染症法改正案では、見直しを早期に検討することが付則で盛り込まれており、厚労省は年内にも専門家との具体的な議論を始めたい考えです。